

# 「家がいいね」 第151号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2016. 12. 12

「死にたい」って言うのは、恥じゃない。

いきなり「死にたい」と相手に言われると誰でも怯（ひる）むでしょう。「死んではいけないけど」と説得するべきかどうか頭に浮かべてしまうでしょう。



幾つかの場面を経験し、ようやく私も自分の責任を問われたり、「殺してくれ」と頼まれてあるわけではないと思えるようになってきました。その人が「死にたい」という言葉の前後に、どんなことを言いたいのか、聴こうという気持ちが出てきた頃と符合します。「こんなこともできないなら、死んだほうが」「死ぬほどつらいこと」「という言葉があればよい。理由を問いたです必要はない。「死にたい」という言葉を出していいのだと、落ち着き待つ姿勢が伝われば相手は言葉を継いでくださる。在宅高齢者の方が「年だ。もう早く逝かせてほしい」と言われます。話が續くうち「また来てな」で終わればいいのです。ロウソクの火のように、風に揺れても最後まで燃え尽きれば、老衰が自然の理（ことわり）だと思えます。

「とも暮らし」の意味を考えてみました！

12月3日からホームホスピス全国研修・大阪に参加しました。今や「一人暮らし」が便利という時代です。一緒に経験し共感を通わず現場は減る一方です。ヒトを人間に育てる体験から皆遠ざけられる時代です。家と病院・施設の間で暮らしに大きな亀裂が入ると修復不可能にも。ホームホスピスは、地域で共に暮らす家を、目に見える形にする運動です。自宅で最期まで在宅ホスピスケアを願う人たちを支えるための、揺り籠ともなりますね。

（縁の結び人、大熊由紀子さんと  
念願のツーショットです）



公務員に、こんな型破りの人もいる



便器の掃除に励むのは、元常滑副市長の山田朝夫さん。地方自治体に一時出向する総務省キャリア官僚の道を、現場へと振り替えてしまった人です。「仕事とは、組織という人に仕えることではなく、現場という事に仕えること」とその真髄を直言しています。常滑市民病院の新築再建（平成27年5月）への関わりが注目です。平成21年に改革に着手するまでは、医師数不足、累積債務を抱え、老朽化し、（伊勢病院以上の）存続の危機にありました。始まりは、「みんなで創ろう！、新病院100人委員会」での不満の集中砲火。しかし市民と病院のオープンな議論で、「コミュニケーション日本一の病院」を目指す市民意識が練り上げられました。仕事は楽しく痛快、を争べる山田さんの著作です。

続けることが文化になる

みやがわ書店60周年、いせひでこさん（絵本作家）の記念講演会、とても良くて言葉を超える表現力に感銘しました。1月9日（日）午後には、多気町立勢和図書館で講演あり。原画展の期間も、映画「いのちのかたち」1月28日、進富座

休診日のお知らせ

☆年末年始のお休み

12月28日（水）～1月3日（火）休診

☆研究会出張ためのお休み

2月4日（土）～2月5日（日）

この期間中も在宅の方々には、連絡対応しますので、「ご安心ください。」



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>